

「とらふぐ漬け丼」が県知事賞を受賞

新松浦漁業協同組合（渡邊勝美代表理事組合長）の「とらふぐ漬け丼」が第59回長崎県水産加工振興祭水産製品品評会調味加工品・魚卵部門において長崎県知事賞を受賞しました。この品評会は、水産加工品の品質、製造技術の向上と県民の水産加工品に対する認識を深める目的で開催されています。

「とらふぐ漬け丼」は、市内で生育された養殖とらふぐをごまたっぷりの特製だれに漬けこんだ商品で、贈答品としても親しまれています。

同組合の椎山篤工場長は「受賞するとは思っていませんでした。多くの人に商品を知ってもらいたい機会になった」と話しました。



厚生労働大臣から感謝状

松本^{ようこ}葉子さん（志佐・里1）は、長年にわたり、ひとり親家庭に対する支援を行った功績が認められ、厚生労働大臣から感謝状が贈られることになりました。

市長から12月23日、感謝状の伝達を受けた松本さんは、平成18年4月から平成30年12月までの12年9か月間、母子・父子自立支援員としてひとり親が抱える子育て、就労などの相談を年間約50件ほど受け付け、保護者の自立支援に尽力されました。

松本さんは「自立支援員という仕事が好きで長く続けることができました。このような形でたたえていただき大変光栄です」と話しました。

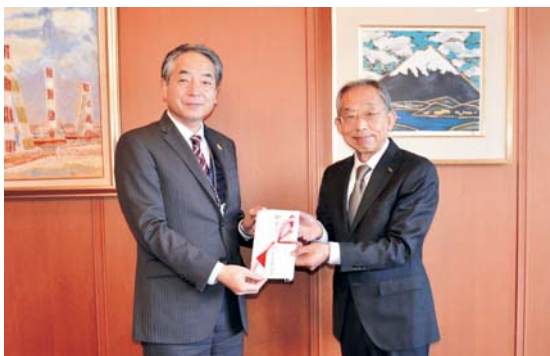


地域振興のために

九州松下工業株式会社（松下行利代表取締役社長）は1月12日、市役所を訪れ地域振興に役立ててほしいと、市へ寄付金を贈呈しました。

同社は、各種産業用機械を開発、製造しており、ポケットコイルマットレス製造機械などの産業用機械メーカーで、昭和46年に本市へ工場を移転。工場の操業開始から今年で50周年を迎えました。

友田市長は「雇用の創出をはじめ、地元中高生の企業見学の受け入れなど、地域振興にご貢献いただき心から感謝申し上げます」とお礼を述べました。



100歳 おめでとうございます



石本 ヒサエさん (志佐・白浜)

大正11年1月2日生まれ

志佐町で生まれ育ち、昭和29年4月に結婚。おしゃべりが大好きで、明るく朗らかな性格です。

現在も、新聞を読んだり、お風呂上りの足踏み運動をしたりすることが日課です。



頑張ろうとする君へ。松浦から、エールを。



株式会社ハクエイは、主に建築用鉄骨を取扱う鉄鋼業会社です。

国土交通大臣の認定を受けた M グレード工場で、徹底した検査体制のもと、県内外へ製品を出荷しています。自社で鉄骨を製作し、現場で組立てるなど、一貫して作業を行えることが当社の強みです。

製作した鉄骨は、学校校舎、ショッピングモールをはじめ、一昨年に完成した佐世保市浦頭ふ頭クルーズターミナルにも使用されています。

当社は、20 代前半の従業員が多く、明るく元気な会社です。業務に必要な研修、資格取得を支援するなど、社員の自己成長を促しています。

また、3 人の女性設計士も活躍しており、働きやすい職場づくりに努めています。

「信頼されるものづくり」

株式会社ハクエイ

創業年 昭和 41 年 10 月
所 在 松浦市御厨町大崎免 414-1
従業員数 13 人

従業員ハインタビュー

田中智志さん（左）
中野辰哉さん（右）



2 人とも御厨中学校の出身です。職場は地元出身者が多く、毎日にぎやかに仕事をしています。

現在は製品の組立や点検、荷出しなどを行っていますが、全ての工程を把握し、何でもできる職人を目指しています。

大変と感ずることもありますが、建物が完成したときの達成感は格別です。

わたしたちの郷土

～文化財は地域の宝～

元寇船^{かくへき}隔壁板の保存処理が進んでいます

平成 14 (2002) 年、鷹島町の地方港湾^{こうざき}神崎港改修工事に伴う緊急発掘調査で船の部材と考えられる、隔壁板(船板材)が海底から発掘されました。この隔壁板は、船内を仕切る壁として使用されていたもので、長さ 550 ㍎、幅 70 ㍎、厚さ 17 ㍎と鷹島海底遺跡から出土した最も大きな遺物です。そのため、既存の設備では保存処理ができず約 14 年間水槽の中で保管していましたが、平成 31 (2019) 年 3 月に琉球大学の池田榮史^{いけのゑいし}教授(当時)を代表者とする科学研究費事業で、隔壁を保存処理するための含浸処理装置が完成しました。

この装置は、大阪市文化財協会の伊藤幸司氏が設計したもので、太陽熱を利用して薬剤を溶かした液体を間接的に温め、遺物に合わせて大きさを変えることができる含浸槽を備えた世界初の装置です。海底から出てきた木材内部にはたくさんの水が含まれており、展示するためには内部の水を薬剤と置き換える含浸処理が必要です。8 月からは、糖類の一種であるトレハロースを用いて含浸処理を開始しました。

令和 3 (2021) 年 3 月には隔壁板の含浸処理を経て含浸槽から取り出し、送風機で風を当て薬剤を固めました。現在、隔壁板表面に付着した余分な薬剤を除去する表面処理を進めています。処理の進捗状況を見学することができますのでぜひご来館ください。



▲ (上) 含浸槽から取り上げた隔壁板
(下) 保存処理作業

問合せ先 文化財課文化財係 ☎内線 356